

四ノ一、浄瑠璃寺流記事より笠置寺礼堂上棟の記事

出典 大日本仏教全書

解説 浄瑠璃寺は笠置寺から南都へ向かう途上にあり、良く南都に通っていた貞慶は浄瑠璃寺とも繋がりがあった。貞慶著地藏講式はその奥書に「草之依小田原之仰也」とあるが、小田原山とは浄瑠璃寺の山号である。

原文

一 同(建仁)三年<sup>癸亥</sup>二月一日楼門経蔵并阿伽井造<sup>レ</sup>之。上棟今年正月二十二日杣取事始<sup>レ</sup>之。今日当山経蔵楼門。東山十三重塔。笠置寺礼堂。三ヶ寺。同日棟上也。不思議□□

(中略)

一 同年(建仁元年)九月二十四日。唐招提寺釈迦念仏。当寺始テ勲<sup>コ</sup>仕<sup>シ</sup>之<sup>一</sup>。七ヶ日ノ内。第六日依<sup>テ</sup>解脱御房御勧進<sup>一</sup>也。当山勲仕也

(中略)

一同(建暦)三年<sup>癸酉</sup>四月六日鑿眞和尚御□奉<sup>レ</sup>迎<sup>レ</sup>之  
供養導師金泉已講。□□唐院僧都御坊玄賛講衆。学問興業之始也。又□年二月三日解脱上人入滅也。

読み下し文一

同(建仁)三年癸亥二月一日楼門、経蔵、並びに阿伽井之を造る。上棟今年正月二十二日、杣取の事、之を始む。今日、当山経蔵、楼門。東山十三重塔。笠置寺礼堂、三ヶ寺。同日棟上也。不思議□□。

(中略)

一 同年(建仁元年)九月二十四日。唐招提寺釈迦念仏。当寺始て勲に之を仕る。七ヶ日の内。第六日解脱御房御勧進に依つて也。当山にて勲に仕る也

(中略)

一同(建暦)三年癸酉四月六日鑿眞和尚御□、之を迎え奉る。  
供養導師金泉已講。□□唐院僧都御坊玄賛講衆。学問興業の始也。又□年二月三日、解脱上人入滅也。